



公民館講座・なんでも塾のよらす

コロナ禍の中、文化や芸術、スポーツなどの分野も大きな影響を受けていますが、今年度の蛭川公民館講座・なんでも塾が6月末からようやく動き始めました。しばらく待たされましたが、その分、みなさんと張り切って取り組んでいらっしやいます。人と人が出会い、新たな知識や技を学び、生活に新たなページを刻んでいくことの喜びを味わえればありがたいことです。紙面から伝わるとよいのですが、受講生のみなさんの元気をいただきたいと思ひます。



土曜スポーツ

皆さん元気いっぱいです。



なんでも学習塾

自分の目標に向かって
がんばっています。



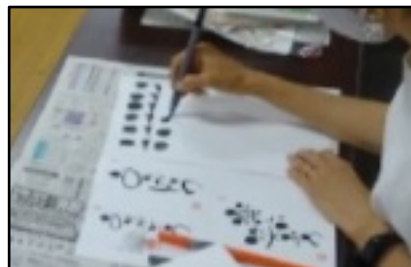
ほたる観察会

「ほら、あそこ！」
「たくさん光ってるよ」



星空観察会

うわあ！土星の環がくっきり。



己書幸座

こんな文字が書けます。



四季の飾り巻き寿司

食べるのがもったいない。



あそびの広場

「うれしい」を体いっぱい表します。



ウォーキングを楽しむ

歩くって楽しい！



健康麻雀

チーパイ(牌積)も意外と難しい。

蛭川の起源に迫る

黒曜石製尖頭器の秘密

令和二年十月、愛知県みよし市歴史民俗資料館・東海石器研究会副代表の平井さんという方から、村史八十二ページに掲載される黒曜石製尖頭器について問い合わせがありました。

用件は「東海地方における黒曜石製尖頭器について、黒曜石の産地推定を研究しているので、蛭川の村史に掲載されている尖頭器をお借りできないか」というものでした。

明治大学黒曜石研究センター（長野県小県郡長和町）では、資料にX線を照射し、その物質に含まれる元素に固有の蛍光X線が発生することを応用して元素組成が測定できます。黒曜石は産地ごとに特有の元素組成を持っていることから、各地の黒曜石サンプルの元素組成と分析対象となる黒曜石の元素組成を比較することで、石器に使われた黒曜石の原産



村史82ページより

右：矢柱遺跡出土の尖頭器
左：これまで田原遺跡出土の可能性が疑われていたが、今回の調査で北海道産が確認された尖頭器

地を推定することができる」との説明を受けました。

村史には、縦×幅、七×三cm位の大きさの尖頭器二つの写真が掲載されています。そのうち一つは、小川壮二氏によって矢柱遺跡で採集されたもので、表面が風化して灰白色を呈しているものの石質は益田郡下呂町湯ヶ峰に産する黒雲母石英安山岩に似ています。

もう一つは田原遺跡の北西部四ツ辻附近の丘陵地で採集されたといわれる漆黒の黒曜石製ですが、石質が北海道産の十勝石に似ていることや、採集された場所の近くに北海道空知郡から持ち帰った十勝石製の尖頭器数個を所有している人のあることなどから、蛭川で出土したものではありません、移入品ではないかと考えた人もありました。しかし、採集者といわれる人が故人となっているため、確認の手がかりは失われたと記されています。

十二月になり、平井さんから、調査結果が判明したので黒曜石の尖頭器を返却したい旨の連絡があり、田原遺跡で採集されたといわれる尖頭器は、原産地が北海道置戸常呂（おけごと）に分類できるとの結果をいただきました。

昭和三十年代に一大ブームで大勢の方が置戸常呂を訪れたという話も聞きました。蛭川の近辺では、黒曜石の原産地は長野県の諏訪、和田峠に分類されますが、田原遺跡採集とされたものは、村史に推測があったように移入されたものであり、その真偽がようやく明らかになったといえます。

文責（郷土資料館 加藤・曾我・奥村）

編集子



九月には敬老会がありましたが、名簿作りに気を遣う時代になりました。個人名、年齢などの情報は「個人情報保護法」に基づいて、公の機関から引き出すことができせん。▽今まではそうした点について鷹揚なところがあつたかもしれませんが、新成人を祝う会にしても名簿作りが難しくなりました。個人情報危険にさらされる時代にあつては守るべきを守らなくてはなりません。▽さて、詐欺では非現実の架空話に引きずり込まれますが、現実の社会では、人と人が顔を合わせるがために第五波がまたまた心配となっています。コロナ後の公民館活動をどう復活・再構成していくか、ようやく考えられる局面に入ってきたと思つていたのですが…。▽次から次へと生まれてくる現実・非現実の問題に振り回されないうちが確かな対処をしたいと思つています。

